

ART KISS

Contemporary Art Museum, Kumamoto

LETTER

FOR KUMAMOTO

ART PEOPLE

vol.

19

2004.3.15 熊本市現代美術館発行



[アート・ド・ギャン]

ART DE GYAN

※もう、おわかりですね! 熊本県でアート、どう? の意です。

画廊喫茶三点鐘

熊本市手取本町3-8有明ビル ☎326-3040

●「**燗茶会書画展**」(1.4-10)書家の井上香嶺さんと杉元研心さんら12人が、25点の小品を額や軸で展示。井上さんは「舒適」を額額で見せ、杉元さんは、仙座和尚の「円相畫贊の「これ食ふて茶のめ」を色紙額にしていた。いずれも月のこらな自分なりの好みで書いているのが楽しい雰囲気になっていた。(S.K)

●「**第二高校彩美会**」(1.21-31)第二高校出身の二彩会の皆さんのグループ展。ギャラリーイケオと二会場で行われている。小品の風景画が多く、思い出のある地をそれぞれ丁寧に描いていた。(H.T)

ジェイ

熊本市大江本町6-9(味増天神電停前) ☎372-8732

●「**第14回圓に遊ぶ5人展**」(2.11-2.20)詩・書・画の一体化を試みて、5人の書家が小品額など16点を展示。平田抱山さんは、「百寿の祝い」を書き、三崎天彦さんは「のんびり走ろういちどきりの人生」と自分のことばと自転車の絵を描く。後藤禎哉さんは水仙の絵に「心施」を添、岩本竹田さんは「ほほえみは最高の化粧である」を書き、徳田翠雨さんは女の顔に埋一握の句を書いてきた。(S.K)

アートルーム イケオ

熊本市新市街6-6 ☎324-1414

●「**しらめ白讀グループ書展**」(10.1-10.6)県立第一高校卒の白讀グループの書展である。箱根信女さん、大野律子さん、尾方千晶さん、中村天壽さん、藤森栞子さん、松岡洋子さん、吉弘歌子さん、吉嶺美智子さんの8人のかな作家である。それぞれがキャリアを持ち、大作にいたっていた。読書や調和体作品も見られ、明るい会場となっていた。(S.K)

●「**パッチワーク・キルトスタジオMARIKO教室作品展**」(10.15-20)池田万里子さんが主宰する教室が2年に1回行なっている作品展で今回が8回目。講師の池田さんの「ENGLISH GARDEN」(195×195)は2002年アメリカ・ワールドキルトコンベンション入賞作品で、グラーションが美しい作品に仕上がっていた。また12人の生徒さんたちによる合作「合同スタンドグラスキルト」(220×160)は淡い色彩の布がスタンドグラスを彷彿とさせ、傍らの鮮やかな色彩の花々とのコントラストが目をついた。

●「**古賀孝子 創作人形教室展**」(10.22-27)古賀孝子さんが主宰する創作人形教室の作品展。小さい頃からぬいぐるみなどの人形を作るのが好きだったと語る古賀さん。あえて表情のない人形を作っているのは、見る人それぞれにいろんな表情を感じ取ってほしいという気持ちの表れだという。同じ型から作られた人形も髪の色や目の色で性格までも違って見え、見る人の表情が映し出されるような感じさせた。(E.Z)



◀古賀孝子 創作人形教室展>展示風景

イリスギャラリー

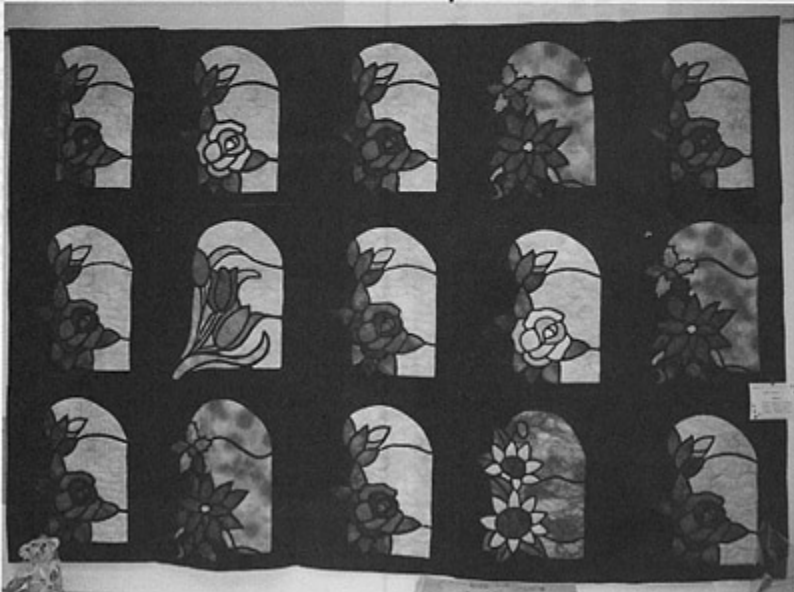
熊本市上通り2-17(ぶらり茶館日会館5F) ☎326-1666

●「**第17回圓心書道展**」(10.28-11.3)書家の有田蘭香さんが指導する社中展で、25人が額や軸などで49点を展示。漢字が主であるが、調和体書やかななど、自分の好きな言葉や歌詞を書いている。有田さんは、大作も含めて9点見せていた。南田鶴川さんや故木村知石さんの賛助出品もあった。(S.K)

鶴屋東館8階ふれあいギャラリー

熊本市手取本町6-1 ☎356-2111

●「**熊日かな書道教室作品展**」(2.18-2.24)日展会友の書家川俣深石さんが指導する生涯学習教室プラザの会員作品展。一人一点を額装して展示。川俣さんは原石庵の「梅白しあたたかき日もさむき日も」を流麗な線書き、河田三和子さんは「八重桜」を見せていた。会場は小品ながら努力したあとがみられるかな作品が並んだ。(S.K)



12人の生徒みなさんの合作<合同スタンドグラスキルト>

アトスペース大宝堂

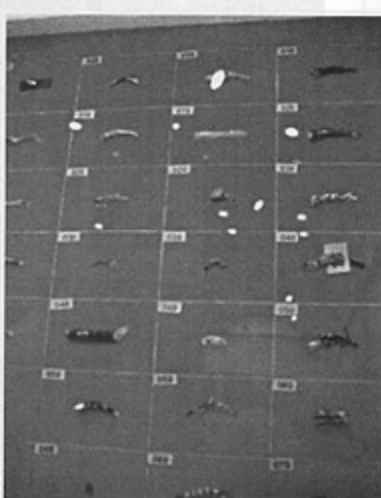
熊本市上通5-6 ☎354-2155

- 「**本田瑞華社中書展**」(10.8-10.13) 書家の本田瑞華さんが主宰する書展の27人が近代詩文書や臨書作品等57点を額や軸等で展示。俳句や詩、歌謡曲の歌詞等をわかりやすい書体で書いており題によくマッチしていた。本田瑞華さんは「解」を全文でダイナミックに見せていた。吉田成堂さんも賛助出品していた。(S.K)
- 「**土野精二展**」(1.14-1.19) 明るく輝くひまわり畑の風景、プラムの花盛りを描いた《花盛りの頃》、高校球児の奮闘を描いた作品等が並んだ。どの作品も清々しい陽光に満ち、みる者を明るく気持ちにさせる。(H.T)
- 「**第5回書芸展**」(2.18-2.23) 日展会友の書家丸山三千代さんが主宰する書展で、24人が43点を展示。丸山さんはサンテックジュベリ作の「星の王子さま」を古い和紙に書き、また、珍しいアクリルの額にモダンな花を見せていた。早春にふさわしく、明るくのびやかな作品が多い。成瀬映山(文化功労者)さんも甲骨体で賛助出品していた。(S.K)

熊本県立美術館分館

熊本市千童城町2-18 ☎351-8411

- 「**第21回深風会道徳展**」(9.23-9.28) 仮名(かな)作家の川俣深石さんが主宰する深風会が、熊本県芸術祭文化行事として行う発表会である。今回は上代様仮名のみでなく、読みやすく親しみやすい調和体を取り入れたのが特徴で変化の面白さは見られたが、調和体作品には、歴史が浅いだけに研究の困難さが窺(うかが)えた。
- 「**杉本京典・中村遊苑姉妹展、香花展**」(9.30-10.5) 漢字作家の姉と仮名作家の姉の姉妹展に、姉杉本京典さんが指導する香花会の併設展である。姉妹展は浪石(さすり)に安定したレベルを保っていた。香花展は、所属する中央の江戸川展を舞台に頑張っているの、高紙三分の一の特殊な形に、小粒の上品な作品が多かった。
- 「**玉高百周年記念同窓会書道展**」(10.15-10.19) 県立玉名高校の創立百周年を祝って、新旧職員と同窓生が開いた書道展で、美術展と合同企画し、県立美術館でデモンストレーションの後、玉名市民会館へ移した。全国で活躍している作家も参加して、バラエティーに富んだレベルの高い力作が並んだ。(T.M)
- 「**第42回青玄社書道展**」(10.15-10.19) 書道研究青玄社会員42人のかな作品等約70点を額や軸等で展示。会長の上村方堂さんは手作りの和紙のはがきに「もみじ」や「あざみ」など変体がな等で造形されて、新鮮な書となっている。かなや調和体作品は自分なりの工夫があり、額とよくマッチして明るく会場となっていた。
- 「**第4回春栞書道展**」(10.21-10.26) 書家井上春嶽さんと中村治泉さんの2つのグループの社中展で、69人が71点を額や軸などで展示。漢字の行草書が主で、調和体書もある。井上さんは「重壁」という古詩をオーソドックスな書風で見せていた。浦川伸彦さんも賛助出品していた。(S.K)
- 「**第4回春香書道展**」(10.21-10.26) 春嶽書道会を率いる井上春嶽さんと、清泉書道会を率いる故川上清泉さんとが合同で、県民芸術祭参加行事として始めた書道展である。川上さんの後を中村治泉さんが会長を勤める。かつての自衛隊仲間が中心のようであるが、89歳でお賢練(かくしゃく)として活動している会員に敬意を表したい。(T.M)
- 「**熊中・熊高江原会美術展**」(11.5-11.9) 卒業生メンバーによる作品展。デザイン、工芸、油彩、彫刻、日本画等さまざまなジャンルが集められ、若者男女問わず芸術を志す人生を楽しむ様子がうかがえた。
- 「**第28回熊本県高等学校美術展**」(11.5-11.9) 非常に見ごたえのある35校参加の大規模な高校生による作品展。熊本工業高校の森義央さん(1年)の(sample)は、いりこ200匹に一匹ずつペイントなどで、全て違う装飾的な表現に仕上げ、それを巨大な標本箱に納めて見せる、というもの。200種のバリエーションを展開する能力と緻密な作業を行う技術力は今後の展開を大いに期待させるだけのものがある。もう1点は八代高校の小原麻子さんと北村和歌子さん(ともに1年)のコラボレーション作品(PAPILIO)。巨大な蝶をフェルト、ファー等のミクストメディアで表現。会場・設営の都合上、会場角に展示され前面などは少々見づらかったが、全体をじっくり作りこんだ作品。絵画作品では、球磨商業高校の松谷詩織さん(3年)の(友)が、画面構図、主題、クリアな質感ともにレベルの高さが感じられた。(H.T)



森義央さんの作品<sample>部分

- 「**第8回独立書人団熊本支部書展**」(11.18-11.24) 熊本独立書道会(徳永果穂支部長)の会員41人と九州独立の会員40人による書展である。古典の臨書作品に、小字数の雄渾(ゆうこん)な濃墨作品や、濃墨のにじみのきいた作品が会場に元気一杯あふれていた。大津賀貞隆さんの竹簡に般若心経を金文字で書いたのはめずらしい。(S.K)
- 「**第26回尚綱大学書道展**」(11.26-11.30) 尚綱大学文学部の書道コース学生に、OGも参加してのスケールの大きい展覧会である。4年生は古典の臨書が各自の創作が自由選択。1,2,3年生はすべて古典の臨書であるが、本展の特徴は2年生の超大作である。完成度はともかく若さ溢(みんぎ)るエネルギー溢る表現は快い。(T.M)
- 「**日韓友好書道展**」(12.2-12.7) 熊本県と韓国忠清南道の姉妹提携20周年を記念する友好書道展が県立美術館分館で開かれた。県書道連盟・幹事役員32人と、忠清南道書芸家協会会員40人が1点ずつ展示した。同じ漢字文化の国なので、漢字の表現は同じである。ハン글文字も、毛筆で古体や官体とか、リズムカナルものや、造形性を生かした作品も見られ、楽しい会場となっていた。
- 「**第31回泉書道連盟展**」(12.2-12.7) 泉書道連盟の役員と、会員180人が軸や額で出品。漢字、かな、近代詩文、小字数書、てん刺など書のでの分野が見られ、書風も多彩である。(S.K)
- 「**面友会展(油彩)**」(12.9-14) 伊藤多恵子さん、萩原弘子さん、内田幸子さん、本原晴美さん、北野典子さん、吉田都基子さん、中田千枝子さん、渡辺真美さんによる油彩展のグループ展。身近な題材、紙先の風景などの主題を描く。長年描き続けている熟練した筆運びを感じた。
- 「**第44回黒日写真展**」(12.9-14) 熊本独特の伝統的な祭りの風景、老若男女の生活の姿、豊かな自然を写した作品が並ぶ。



深川清さんの作品
A赤ちゃん土俵入り(B)↓

- 「**第1回卒業制作展 熊本市立自由館高等学校芸術コース**」(12.9-14) 音楽、美術、書道からなる芸術コースの卒業作品展。特に書道の作品に力強さを感じた。音楽専攻の学生たちの記録も、ビデオ等で展示されると、より現実的な「芸術コースの卒業展」の展示に近づくのではと考えた。教師の皆さんの作品も展示された。
- 「**第32回熊本県立第二高等学校美術科制作展**」(12.9-14) 3年生の卒業制作展とともに、2年生、1年生の研鑽の成果を示す展示。高島悠史さんの木彫作品(再生の形)は、一木彫の存在感を十分に活かしたものだ。小林陽介さんの映像作品(tsunagar)は、クリエイションの作品で、双頭の人物(兄弟)のやりとり、人間関係の楽しさやせつなさを描き出した作品で、内容、クオリティともに素晴らしい。将来が本当に楽しみである。



小林陽介さんの作品
A tsunagar



小原麻子さんと北村和歌子さんの
作品<PAPILIO>

●「九州グラフィックデザイナーズクラブ会員展 2003どこかの誰かにおけるプレゼント」(12.16-21)九州グラフィックデザイナーズクラブ所属のデザイナー達が、「プレゼント」をテーマに、各々個性を出したイメージポスターを展示。ロゴマークやリーフレット、雑誌のページデザインなど、日常生活で多く眼にする様々なデザインの現場で日夜忙しく活躍されるデザイナーさん達が、この展示の自由課題の中で、伸び伸びと自己アピールしている様子がうかがえた。

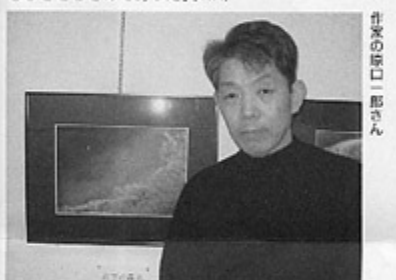
●「天草四郎イラスト原画展」(12.16-21)殉教者天草四郎をテーマにしたイラスト展。天草四郎を追悼する念の強い作品が多く、(天草四郎陣中旗)(コピー)の展示などもあった。

●「第26回友枝雄策デザインスクール展」(12.16-21)輪二点で一組という形式での作品の発表。年末ということもあって、お正月ムードの漂(ただよ)う作品も多い。表具の色、本紙の色、画面の色、とそれぞれの色彩感覚が楽しく表現されていた。

●「地域/建築展」(12.16-21)熊本大学工学部の建築系教員と学生有志による展示。各研究分野での成果の発表とともに、八代妙見祭の笠鉦やそれらの修復に携わった記録といった地元の伝統文化財から、黒川温泉観光旅館協同組合事務所建築模型といった環境と観光商業に関わったもの、また古代ギリシア神話の地、デルフィの遺跡発掘など、建築文化の多様な奥深さを感じることが出来る展示だった。(H.T)

●「第39回熊本県高等学校書道展」(12.23-12.28)県内公私立の代表が、若さにかかせない力作を発表する書道展である。各校の指導者のカラーが濃(うかが)えて楽しい面と、剛強さを強調した力任せの作品も目立つのが特徴である。そんな中で、簡潔にも墨線美賞が与えられたにはホッとした。併設の教職員展の中には、染石(さすか)に注目したい作品が並んだ。(T.M)

●「四季影展」(1.6-1.12)自然の情景を主題にした三年に一度の写真展も今回で三回目。原口一郎さん、野添昭造さん、江藤伸二さん、三條美さん、吉川裕美さんは、移ろいゆく豊かな瞬間をやさしく包む眼差しを感じさせるものであった。(Y.H)



作家の原口一郎さん

●「第19回太古書画展」(1.14-18)日展会友の書家那須球石さんの社中展で、38人が約50点を展示。かな作品が主であるが、調和体作品や磁書作品も見られる。那須さんは伊藤左千夫の歌をあてやかに見せ、昨年の44回日展書画展のグランプリ前日賞をとった白田静汀さんのこの展でもあり、注視をうけている。白田書画会長の中村天香さんも賛助出品していた。(S.K)

●「キャンクラブ熊本支部10周年記念 大山謙一郎展」(1.14-18)故郷の矢部に温かな眼差しをむけた大山謙一郎さんの作品と、写真の指導をうけている方々の端々しい作品が並んだ。

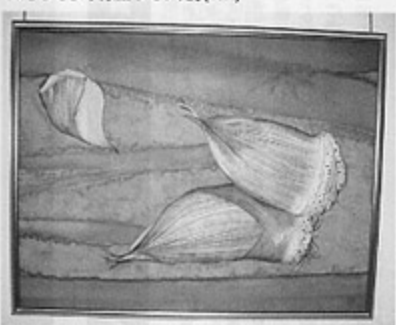
●「東光会12人展」(1.14-1.18)今年は12人に増えたの発表。川崎平正さんの(鼓)は、緊張感あるタッチで、空間が構成されている。

●「第一回くまもと・子どもの美術展」(1.14-1.25)CDジャケットのデザイン、ポスターなど元気な平面作品が会場に満ちていた。

●「富田耕平展」(1.20-1.25)拙作品で構成される風景画は、堅固のような重厚な存在感であった。

●「水園画朱吉屋之会作品展」(1.20-1.25)は下村朱吉さんの八代教室、熊本同仁堂教室の32名の方の作品展。効果的な色彩を用いることで、表現に広がりを感じていた。

●「くまもとと社会保険センター日本画教室第11回 GROUP"雲"展」(1.20-1.25)河本賢さんの(目覚め)は、植物の息吹と外の世界の対比が象徴的。大塚菊江さんの(在)では、丁寧に描かれた菊の触感が、効果的に貼られた布でより際立っていた。(Y.H)



大塚菊江さんの《在》

熊本伝統工芸館

熊本市千歳城町3-35 電話324-4930

●「各地の注連飾りを集めて」(12.9-14)全国の正月飾りの注連(しめ)の展示。鶴や亀などおめでたい動物を裏で編んだもの、シンプルなねじり巻きのものなど、各地の特徴が楽しめた。

●「一光一刀彫「木の仕事」 村上一光個展」(12.9-14)独学で56年木彫を続けてきた村上一光さんの個展。レリーフにおける花びらの表現の繊細さ、干支(えと)などの動物の愛らしさなど、長く木と向かい合い作品を制作し続けた者の熟練の腕と、木を見る眼の優しさが感じられた。

●「森からの贈り物 木のおもちゃ展」(12.9-14)年末年始のプレゼントに好ましい木のおもちゃの展示。ベビー用からコレクター物まで幅広い。

●「作陶展」(12.9-14)花器、絵皿、人形、茶碗などの展示。花器には花が活かされて、より生き生きとした展示になっていた。(H.T)

●「備前焼・日常の器・太田雅之作陶展」(1.6-1.12)暖かみの茶器、ぐいのみなど使い込んで、なじんでいくのが楽しみな器である。

●「木目込人形・桃の節句、端午の節句展」(1.6-1.12)福田博子さんによる節句人形は、壮大な空間を醸し出す力強さをもっていた。

●「味附孔子・器展」(1.6-1.12)生活にそっと溶け込むようなやさしい色調と造形の器が並んだ。

●「陶水窯作陶展」(1.14-1.18)阿部茂孝さんの大型の花器は粘土を重ねる手法が独創的で味わい深い。

●「いわさき千鶴 天草陶磁器絵つけ展」(1.14-1.18)生み出のある筆遣いの絵が器に華やかさと軽やかさを生み出していた。

●「くらしの中で...草木染と器展」(1.14-1.18)肌にあやわらかい福田友子さんの草木染の作品、林原あささんのアイアアに富み、多様に演出できる花器等の陶器作品展。



福田友子さんの作品

●「堀川ヒロ子・東野百合子 手仕事展古藁あそび」(1.20-1.25)二人の布への愛情を感じさせる楽しく、安らぎのある作品であった。

●「産の工芸展」(1.20-1.25)東北から沖縄までの多様な工芸品。

●「幻窯 築き師の器展」(1.20-1.25)政岡雄さんのランプシェードや器は、しっかりとした造形、焼き跡の手法により、安定した確かさを感じさせる。(Y.H)

●「上益城工芸展2004」(2.24-29)益城・嘉島・御船・甲佐・矢部・清和という豊かな自然に囲まれた場所・工房から生まれた、触れると風の音が聞こえてくる、ぎゅっと自然の暮らし時間がそのまま閉じ込められた作品が伝統工芸館に並んだ。木工や陶芸、染色など温もりある作品が、観る者を生まれた工房へ行ってみたいという気持ちにさせた。(R.Y)



《上益城工芸展2004》の筑紫さんの作品

「マリナー・アブラモヴィッチ ザ・スター」展 (2003.11.2-2004.2.1)が開催されました。

日本初の個展で、世界初公開の作品《カウント・オン・アス》を発表！超一流アーティストの怒涛のダイナミズムを体感する展覧会となりました。



《カウント・オン・アス》2003年、ヴィア・オ・インスタレーション

斎藤義重展

—97歳、そのすべてが前衛だった。—
(2004.2.14-3.28)

日本の戦後美術を代表する前衛芸術家、斎藤義重(1904-2001)の、没後初めてとなる大回顧展。合板や石膏、ドリルを用いて構成される大膽で迫力ある作品を通して、既成の絵画、彫刻に鋭い疑問を投げかけた、高藤の「前衛」そのものとしての生涯を演舞する展覧会です。

◎今後の展覧会

「鉄鋼アトムの軌跡展」(4.7-5.23)

「生人形と松本喜三郎」展(仮称)(6.5-8.15)

各展覧会で開催されるイベントについてはホームページをご覧ください。

<http://www.camk.or.jp>



《ペン》1967年、完成後美術館蔵

第3回ベルリン・ビエンナーレ

2004.2.14-4.4

3rd berlin biennial for contemporary art



かつてベルリンの壁が存在したベルナウアー通りの「空白」とらえた写真作品。

Thomas Struth
Bernauerstrasse, Berlin, 1992
colour photograph



アートとデザイン、アートと日常をテーマに、女性の社会的役割をファッション、インテリア作品で表現。

Regina Moeller
embodiment LineTwo
2002
Skirt and coat made from cloth
Collection:embodiment LineTwo:Dagmar Knitfki and Regina Moeller

1998年に始まったベルリン・ビエンナーレは3回目を迎え、初めて「ベルリン」という都市をテーマにしました。今回のキュレーターであるウタ・メタ・パウアーは、東西ベルリンの会場、かつて壁のあった場所に生まれたポツダム広場の映画館の三地点の場の歴史性に注目し、「移住」、「都市の条件」、「音の景観」、「モードとシーン」、「もうひとつの映画」というサブ・テーマのもと、ファッション、映画、都市構造、サブカルチャーの作品が中心となり、都市のように多層的な展覧会となりました。

今月の展覧会

- ラップランド ロバニエミ、ケミ町内 「ザ・スノーショー」(~3.31)
- ニューヨーク ソロモン・R・グッゲンハイム美術館 「シングラー・フォーム」(~5.19)
- ベルリン クンスト・ヴェルケ社 「ベルリン・ビエンナーレ」(~4.18)
- 福岡アジア美術館 「インドのビデオアート展」(~3.21)
(092-263-1100)
- 福岡県立美術館 「近現代美術企画展 片山雅文展」(~4.4)
(092-715-3551)
- 大分市美術館 「野見山晴治展 うつろうかたち」(~3.25)
(097-554-5800)
- 宮崎県立美術館 「コレクション展 第4期」(~3.31)
(0985-20-3792)
- 熊本県立美術館 「海老原喜之助と熊本」展(~3.31)
(096-392-2111)



今月の4コママンガ

Copyright © 2004 by ART KISS LETTER

編集後記

平成15年度もいよいよ最終号。今年度も市内を中心に、さまざまな展覧会が活発に展開されました。AKLでは今年度も熊本、日本、世界と、さまざまな美術の動きをお伝えしてきましたが、改めて実感することは、私たちがこの熊本で頑張っているということが、そのまま世界の美術界に真結しているということです。世界のどこかに私たちの表現の場所があるのではなく、まさしくこの生きている場所が世界のすべてなのだ、その思いと実践こそが、世界のどこでも通用する表現を生み出すということなのです。さあ、熊本市現代美術館も皆さんの精力的な活動に負けずに、頑張っていきます。応援のほど、よろしくお願いします。

編集長 南薫 宏

寄稿者紹介

兼城 昌山 (S.K)

Shozan Kaneshiro

「書」のことを、日本では「書道」といっているが、中国では「書法」といい、韓国では「書芸」と呼んでいるのもお国柄か？

森山 淡草 (T.M)

Tanso Moriyama

注目を浴びた成る高校のスポーツクラブ。何かをめぐす心」を育てるため下校の際にゴミを拾いながら歩かせている。また靴の乱れがチームの結束に影響すると、靴並べをきっちりとやらせるといふ、指導者にも生徒にも厳格。

学芸員紹介

本田 代志子 (Y.J)

美術館職人エレベーターを見た子供達が大喜び、いろんな発見の場であらいたと思います。

蔵座 江美 (E.F)

肌れと出会いの季節です。桜の花ももうすぐです。

金澤 韻 (K.S)

扱った花がいっぱいです。春の訪れを予感させます。

坂本 顕子 (A.S)

斎藤義孝さんは晩年もお肉を好んで召し上がっていたそうです。その元氣羨ましい!

冨澤 治子 (H.T)

本々が守を離れさせているのを見ると、夫の冬の服、自分は何をどれだけ準備できたかと反省します。

山室 りさ (R.Y)

今が旬の魚、ヒラメ、肝を焼いて食べるとこれがまた美味い!

竹田 茜 (K.T)

今年の冬は嬉しい寒さの目が多く、朝の通勤がつかかった。

発行元/ART KISS LETTER アート・キッス・レター Vol.19 2004年3月15日発行 〇無料〇

編集人/田中 華入

編集長/南薫 宏 担当/冨澤 治子

印刷/熊本県印刷センター協業組合 デザイン/松永 社デザイン事務所

発行/熊本市現代美術館 〒860-0845 熊本市上通2-3

TEL.096-278-7503 FAX.096-359-7894